

12. 結節性甲状腺腫 100 例のシンチグラム像

吉田 祥二 伊藤 一夫

牛尾 啓二

(高知県立中央・放)

塩見 文俊

(同・内)

良性結節性甲状腺腫65例と甲状腺癌32例、悪性リンパ腫3例の計100例を対象にしたルーチンの¹³¹I 甲状腺シンチグラム像を分析し、腫瘍の良悪性の鑑別の可能性を検討した。

シンチグラム所見上、良性の可能性大の所見としては、1) hot nodule, 2) cold nodule in enlarged lobe, 3) 均一な low activity nodule, 4) 欠損部の残存部に対する凹面形成等があげられ、一方、甲状腺癌の可能性の強い所見は、1) lobar no activity, 2) cold nodule in diminished lobe, 3) 不均一な low activity nodule などがある。悪性リンパ腫については、症例が少ないが、甲状腺癌と異なり、cold nodule in enlarged lobe の所見が多かった。

13. 珪肺症の perfusion ventilation study

田辺 正忠 佐藤 功

玉井 豊理 上者 郁夫

木本 真 穂山 隆夫

山本 道夫

(岡山大・放)

珪肺患者、I 型 5 名、II 型 6 名、III 型 2 名、IV 型 3 名、合計 16 名に対して、¹³³Xe-VS, S セットによる ventilation study, ならびに、^{99m}Tc MAA による perfusion study を施行し、次の結果を得た。

1) perfusion study: I 型の 1 名のみ正常で、他の全てに血流減少等不均等分布を認め、5 例に fissure sign をみた。2) ventilation study: single breath では I 型の 1 名の正常を除き、全例に perfusion と match した変化を認め、equilibrium では、正常化の傾向を示した。wash out では 16 例中 14 例に xenon retention を認めた。3) 肺機能検査との関

連: %VC, FEV% で異常と判定したもの、また、正常と判定したものにも大部分 wash out の遅延をみた。flow volum, 加齢, 喫煙の因子を考慮して、さらに検討中である。

14. 補助診断法としての RI-venography の検討

山本 洋一 小山 矩

香川 佳博 小山 豪

(広島大・放)

最近、核医学動態機能検査は、装置の発達に伴い、簡単に行なえるようになった。われわれは、静脈閉塞の疑いのある患者に施行した。RI venography 上、閉塞所見としてとらえられるものに血行の途絶、先細り、内頸静脈への逆流、側副路出現、静脈内 RI の停滞が挙げられる。RI-venography は venography に比し、解剖学的位置付けが困難であるが、ヨードショック、心負荷はなく、患者への侵襲は少ない。そして、簡単に行なうことができ、静脈閉塞の存在診断あるいは経過観察の手段として利用価値が高い。

15. ^{99m}Tc-RBC vascular image の脳神経疾患に対する応用

吉野 公博 元木 基嗣

馬場 義美 武本 本久

土井 章弘

(香川県立中央・脳外)

脳血管障害に対する Tc-^{99m} pertechnetate, Tc-^{99m} pyrophosphate, Xe-133 等を用いた報告は多いが、non-diffusible indicator を用いた報告は少ない。今回、私共は Tc-^{99m} pertechnetate による標識血球を用いて RI Angiography, static vascular image を試みたところ、若干の知見を得たので報告した。赤血球標識率は、90% 前後であった。これを各種脳血管障害例に行なったが、Tc-^{99m} pertechnetate scintigram よりも、比較的造影剤による血管撮影に近い血管像を描出することがで